

汚染水の港湾内への流出に関する公表問題の時系列

日付	曜日	イベント	内容	本店会見におけるメディアからのご指摘	当社からの説明
2011年 4月2日	土	2号機取水口スクリーン付近からの汚染水流出	2号機の取水口付近にある電源ケーブルを納めているピット内に1,000mSv/hを超える水が貯まっていること、およびピット側面のコンクリート部分に亀裂があり、当該部分よりピット内の水が海に流出していることを当社社員が発見	-	-
4月6日	水	2号機取水口スクリーン付近からの汚染水流出停止	漏水発見後、ピットへのコンクリート流し込みや、高分子ポリマーを投入するなどの対策をとったものの、漏水を止めることはできなかつたため、ピット周りに数回にわたって薬液注入を実施し、海への流出が止まったことを確認	-	-
5月11日	水	3号機取水口スクリーン付近からの流出の確認と流出停止	3号機スクリーンポンプ室において、電源ケーブルピットからスクリーン室のコンクリート壁に生じた貫通部を介して、汚染水が流出していることが判明 止水処理によって、同日のうちに流出停止	-	-
4月～	-	汚染水の流出防止対策の実施	大型土嚢の設置：2011年4月5日～4月8日 シルトフェンスの設置：2011年4月11日～4月14日 鉄板設置（2号機スクリーン前）：2011年4月12日～4月15日 ピット等の閉鎖：2011年4月2日～6月25日 スクリーン室角落とし：2011年6月12日～6月29日 1～4号機透過防止工破損箇所の鋼管矢板による閉塞工事の実施：2011年7月12日～9月6日 海側遮水壁の設置：2011年10月28日～（2014年9月竣工予定）	-	-
2012年 12月17日	月	No. 1～3観測孔の地下水調査結果の報告	観測結果は、3箇所ともセシウムは検出限界値未満、トリチウムは告示濃度未満 （測定日：No. 1…12月8日、No. 2…12月8日、No. 3…12月12日）	-	-
2013年 5月24日 ・ 31日 ・ 6月7日	金 ・ 金 ・ 金	No. 1～3観測孔の採水の実施	5月24日 満潮時に採水 → 5月31日にトリチウム分析結果を確認 5月31日 干潮時に採水 → 6月11日にトリチウム分析結果を確認 6月7日 満潮時に採水 → 6月14日にトリチウム分析結果を確認	-	-
6月18日	火	No. 1-1観測孔工事着手	-	-	-
6月19日	水	臨時会見 ポイント	No. 1観測孔で高濃度トリチウム、ストロンチウムを観測	海側へは拡散していないのか 海への漏えいの可能性はあるのか いつ、誰がトリチウムの値が高いことに気付いたのか、本店に報告したのはいつか	現時点で漏えいしていると判断していない 海への漏えいの可能性はないと考えている
		第11回原子力規制委員会	東電に対し、以下の指示事項が出された ・放射性物質の拡散評価の実施、港湾内のモニタリング強化 ・告示濃度限度を超える放射性物質の海域への流出を防止するための対策を早急を実施 ・高濃度の汚染水が滞留する海側トレンチに対し、漏えい防止対策等を早急に具体化し、前倒ししての実施・完了 委員から、No. 1観測孔測定結果の公表が遅いこと、地下で何が起きているかのメカニズムを説明するべきと指摘	-	-
		定例会見	No. 1観測孔で高濃度トリチウム、ストロンチウムを観測	もっと早く公表できたのではないかと 本店にデータが届いたのはいつか 社内でデータを共有したのはいつか	海とつながっている可能性はある 海との行き来の可能性は今後評価していく 海水データに影響は見られない
6月24日	月	定例会見	1-4号機北側取水口でトリチウム1,100Bq/Lを観測（過去最大）	海水への漏えいがあるのか	サンプリング結果をふまえて慎重に判断したい 今後のサンプリング結果を注視していく

汚染水の港湾内への流出に関する公表問題の時系列

日付	曜日	イベント	内容	本店会見におけるメディアからのご指摘	当社からの説明
6月26日	水	第12回原子力規制委員会	影響が海水へ及んでいる可能性が否定できないと指摘 モニタリング結果に注視するとともに、1、2号機取水口間の護岸背後エリアにおける薬液注入等による地盤改良を早期に開始することを当社へ指導 委員より「満潮時は海水が流れ込んでくるはずで、どちらかという濃度は低い方になっているかもしれない。きっちりサンプリング調査をして欲しい」とのご発言	-	-
		定例会見	1-4号機北側取水口でトリチウム1,500Bq/Lを観測（遮水壁で閉塞の可能性） 北側取水口観測点を移設 陸上および港湾内モニタリング計画の強化を公表	測定結果をグラフで見せてほしい 分析速度を早めることはできないのか	今後データを蓄積した上で評価する （規制委員会の指摘に対して）判定はよく状況をふまえて見極めた上で説明する
		No. 1-2観測孔工事着手	-	-	-
6月27日	木	No. 1-1観測孔掘削完了	-	-	-
6月28日	金	No. 1-4観測孔工事着手	-	-	-
6月29日	土	観測孔分析結果公表	No. 1-1観測孔で全β3,000Bq/Lを観測（過去最大） No. 1-1観測孔でトリチウム430,000Bq/Lを観測（過去最大）	-	-
7月1日	月	定例会見 ポイント	No. 1-1観測孔で全β3,000Bq/Lを観測（過去最大） No. 1-1観測孔でトリチウム430,000Bq/Lを観測（過去最大）	海へ漏えいしていると考えられないのか どのような状況になれば漏えいしていると判断するのか	現時点では何とも言えない 今後も継続してデータを蓄積する必要がある 海側データに変化はない 護岸改良の対策は急いで進める データのトレンドを見て判断したい
7月2日	火	No. 1-3観測孔工事着手	-	-	-
7月3日	水	No. 1-2観測孔掘削完了	-	-	-
7月5日	金	定例会見	No. 1-2観測孔で全β900,000Bq/Lを観測（過去最大）	全β900,000Bq/Lもの高い値が出ても見解を変えないのか	海側では値が出ていない これまでの見解を変えるものではない
7月6日	土	No. 1-4観測孔掘削完了	-	-	-
7月7日	日	観測孔分析結果公表	No. 1-1観測孔でトリチウム600,000Bq/Lを観測（過去最大） No. 1-2観測孔でトリチウム380,000Bq/Lを観測（過去最大）	-	-
7月8日	月	定例会見	1-2号機取水口間の護岸における地盤改良工事を開始	No. 1-1, 1-2でトリチウムが上昇していることの 評価は 地下水の流れから考えれば海へ流れたと考えるのが 自然ではないか 海への漏えいは否定できないのではないか 結論を先延ばしているのではないか	海側で高い値が出ていないため地下水の海への影響 は判断しかなる データの蓄積量が少ないのでよく見極めたい 予断を持たずに調査していく
7月9日	火	当社HPで動画公開	地盤改良工事実施状況の動画を公開	-	-
		定例会見 ポイント	海側トリチウム濃度の変化がなく、その状態が継続した場合でも、7月23日の社内専門家会議の結果をふまえ、中長期の進捗状況説明会で公表すること、ただし、海側トリチウム濃度が急上昇した場合は地下水漏えいの可能性を速やかに公表することを決定	-	-
7月10日	水	第14回原子力規制委員会	高濃度の汚染水の地中への漏えいが生じ、海洋への拡散が起きていることが強く疑われると指摘 薬液注入による地盤改良や、海側遮水壁の設置工事、海側トレンチ内の抜き取り作業等の早期完了を要請 委員からは潮位と地下水位の基礎的なデータ採取を指摘 その後の記者会見で、委員長より「海洋の汚染は、大なり小なり届いていると思う。事故時に一番汚染してしまったわけだが、その後もずっとこの2年間続いていると思う」とのご発言あり	-	-
		定例会見	No. 1-2観測孔で高濃度セシウム（セシウム134：11,000Bq/L、セシウム137：22,000Bq/L）を観測 No. 1-2観測孔濾過による放射能濃度変化	規制委員会のトップの発言をどのように捉えているのか 同じデータをもとにしてはいるのに規制委員会と見解が違うのはなぜか 専門家に評価を依頼しているのか 何がどのようになれば漏えいしていると判断するのか 観測孔の水位を時系列で記載してほしい	（規制委員会の指摘に対して）しっかり調査を実施し 真摯に対応していきたい 海洋への漏えいについては具体的なコメントを出せるだけのデータがないため何とも言えない 各種分析結果をふまえて判断する 引き続き、データを蓄積し状況をしっかり説明していく

汚染水の港湾内への流出に関する公表問題の時系列

日付	曜日	イベント	内容	本店会見におけるメディアからのご指摘	当社からの説明
7月11日	木	No. 1-3観測孔掘削完了	-	-	-
7月12日	金	規制庁から当社への質問要求	規制庁から5つの質問が要求される ・海側トレンチに存在する汚染水の流入・漏えい経路になり得る箇所の説明 ・2号機取水口スクリーンおよびピットの止水範囲および効果の説明 ・湾岸部地下水の挙動について、地下水流速等の実測やシミュレーションに基づいた説明 特に、 <u>地下水位変動と潮位変動の相関の有無についての説明</u> ・地下水観測孔の構造・取水方法および湾岸部の地下構造の説明 ・港湾内潮流についての説明	-	-
7月17日	水	定例会見	取水電源ケーブルトレンチの調査状況を説明	なぜ観測孔内の水位を公表しないのか 評価結果をいつ出すのか	水位を測定しているか確認する 最終的な評価はまだで、海への影響は分からない 専門家の意見を聞きながら検討していく
7月18日	木	原子力部門、 広報部他打合せ	追加ボーリングの水位測定結果を確認。No. 1～3の観測孔のデータ有無を議論している中で、 潮位と地下水位の関係データを発見	-	-
		規制庁へ説明	海側トレンチの構造等、過去の汚染水漏えい時の止水対策、湾岸部の地下水の挙動、 地下水サンプリング、5、6号機海水冷却系及び湾岸内潮流等について説明	-	-
		臨時会見 (福島第一3号機湯気)	-	観測孔内の水位を測定するべきではないか	観測孔内の水位は測っている
7月19日	金	社長、SC室、 原子力部門、立地地域部、 広報部打合せ	データ公表について協議 7月23～24日の漁業関係者説明会までに速やかに公表することを決定	-	-
		定例会見 ポイント	タービン建屋東側における地下水および海水中の放射性物質濃度の状況 港湾内、放水口付近、護岸の詳細分析結果	汚染源は陸側からきているのではないか 建屋から汚染水が流れ込んでいるのではないか 現場で測定した観測孔内の水位データをそのまま 公表できないのか	汚染源については結論が出ていない。もう少し調査 を継続し、検討しなければならない 地下水位データについては精査中のため、とり まとめて公表したい
7月20日 ・ 21日	土 ・ 日	原子力部門、立地地域部、 広報部打合せ	公表資料作成	-	-
7月22日	月	関係省庁、県、自治体、 漁業関係者へ説明	公表内容を事前説明	-	-
		定例会見	汚染水を含む地下水が開渠内へ流出したと判断したことを公表	流出を認めるのか なぜ今日公表したのか、参院選の終了を待っていた のか 以前から水位を測定していたにもかかわらず、なぜ 今になって公表したのか	開渠内との行き来が考えられる 整理ができたので今日お知らせした
7月31日	水	薬液注入による地盤改良 (1列目)完了予定	6月26日より現場着手し、7月8日から薬液注入を開始	-	-
8月10日	土	薬液注入による地盤改良 (2列目)完了予定	同上	-	-

※「本店会見におけるメディアからのご指摘」および「当社からの説明」については、当社会見議事録にて確認

以上